

## 第10期淡路地域ビジョン委員会 意見交換結果(8/22)

【各分野で出された意見、キーワード等】

### 淡路島の歴史学習

#### 意見、キーワード

●登山を含めた形で歴史を辿る

- ・淡路三山（諭鶴羽山、先山、柏原山）や淡路五山（+東山寺、浄瑠璃寺）縦走を含めた場所を訪ねる。古刹（古いお寺）と歴史が絡んでいる場所。
- ・宿泊も入れてゆっくりと淡路を楽しんでもらえるように、山のほかにも史跡、歴史、グルメ、温泉も楽しめるコースを企画・設定する。
- ・淡路島は小さな島だが歴史の宝庫であり、地元の人知らない歴史を知らせることで、「淡路」についての見聞を広めてもらう。
- ・ガイドが案内できるのがベスト（歴史と登山を組み合わせる）
- ・女性の間で歴史・山が流行っている。（歴女・山ガール）

【今年度】モデルコースを提案するところから始める。

- ・その後、コースを企画し、分科会で実際にいずれかのコースにトライアルして、広く提案していく形で取り組む。

## 防災

### 意見、キーワード

- 防災士の活動掘り起こし（眠れる防災士を起こし立てる）
  - ・コロナ禍により活動内容に大きな変化。再講習にて現役化を図る。
- 県・3市・消防署の防災担当を訪問して意見交換
  - ・災害時の役割（組織体）と形を学ぶ。
- 子供たちの防災意識を高めるためのイベント開催
  - ・洲本市内小学校での防災教育の継続／淡路市・南あわじ市でも開催を検討。
  - ・避難所（一次、二次）の環境整備
  - ・小中学校体育館のエアコン設置
  - ・地域での活動（町内会、老人会、婦人会等連携）の推進
  - ・行政、消防士、消防団体、地域との連携
  - ・3市（島）として共同でできることを行う。
- 廃校を使つての防災キャンプ（自給自足経験）

意見・キーワード

●障害者スポーツ（卓球バレー）と園芸療法

どちらも対象者が似ているため同時進行で取り組んでいく。

●障害者スポーツを広める

- ・学校教育として取り入れたい。（授業としても広めていきたい。）
- ・スポーツは同じ事が無い。（人・プレーが変わりマンネリ化がない）
- ・老人会の1割はスポーツをしているが、残りの9割は家に居るか介護が必要。その9割にスポットをあて生きがいやスポーツ等の提供ができるのではないか。

●植物を使って健康を促進

- ・場所の提供や、子どもから高齢者までの人員を集める手段についての意見や知恵の提供が必要となる。
- ・泥団子を作ってこけ玉まで発展させることで、土を触る楽しさを実感してほしい。こけ玉への毎日のお世話が、命の共有、生きている喜びにつながる。
- ・園芸療法は継続することが大切。家で育てて持ち寄って発表会をするなど。
- ・院内の園芸療法のみでなく、外に広めて認知症を予防していきたい。
- ・現場の求めることを見学・勉強していくことが大切。
  
- ・普段の生活の筋肉を鍛えるようなイベント・体操の開催。
- ・感染対策を行って、精神的ストレスの軽減をする必要がある。
- ・誰かと会う事が予防になるので、出て行った先で誰かと頑張れることが重要。

【今年度】指導者を育成する年にする。

卓球バレーの指導者や、こけ玉の作成方法の指導者など。

- ・交流センターは色々と人が集まるため、そのセンター長に卓球バレーの指導者作りを行う。
- ・センター長に相談して、地域交流や3世代交流を図っていく。
- ・卓球バレーは年度終わりに淡路島大会を実施していけたらと考えている。その中で、別ブースで園芸療法・こけ玉の展示や販売も行っていくことで地域貢献につながる。

## 移住者交流・支援

### 意見、キーワード

#### 課題

●移住してきた時に、地元のキーパーソンが分からない。どのように繋がればいいのか。

●対象者を誰に設定するか

①移住してきた人 ②移住してきた人 ③移住してきた人＋地元民

→

移住してきた人同士の繋がり是比较的あり。(Facebook など)

③移住してきた人を中心に地元民を巻き込みながら何ができるかを考えていく。

#### 活動内容 (案)

●地元の高齢者・移住者が一緒に楽しくできる手仕事やクラフトワーク実施  
(コロナ禍の中でできる範囲で)

・2年間で淡路島の色々な地区で開催していきたい。

・その地域の地域資源を活用しながら交流を図っていくなど。